



クローバー動物病院

だより 第20号



今回は、外耳炎(がいじえん)②についてです。

外耳炎(がいじえん)②

今回は、外耳炎の治療と予防についてです。外耳炎は、何度も再発する子の場合、完治はなかなか難しく、生涯つきあっていくようになることもあります。しかし、適切な管理と治療により、発病しても軽度で症状をおさえることができますので、飼い主さんが愛犬・愛猫の異変に気づかれたときは、すぐに病院にお連れください。

1 治療

耳の病気の原因としては、外傷、寄生虫、細菌、真菌、腫瘍(がん)およびアレルギーなどがあげられますが、それぞれ治療法が異なるため、原因をしっかりとつきとめることがとても重要です。

皮膚病と合併している外耳炎が多くみられますが、その場合、皮膚病が治癒しなければ外耳炎は完治しませんし、耳疥癬(ミミダニ)が原因であれば、耳疥癬の駆除を行うとともに合併症の治療も行います。

アレルギー性外耳炎は、耳介内側に強い炎症が見られることがあり、アレルギーをコントロールしないと多くが再発してしまいます。

治療には、耳洗浄液、点耳薬を用いますが、抗生物質を経口的に投与する場合があります。

2 予防

- 耳の病気を予防するには、つねに耳を清潔にし、乾燥を保つようにします。
- 入浴時には耳内に水やシャンプーが入らないように注意し、入浴後は乾いたガーゼや綿棒で外耳を軽くふき取り、耳内をつねに清潔にし、かつ乾燥させます。
- また耳道内に毛が密生しているイヌ（例えば、マルチーズ・シーズー・プードルなど）では毛を抜き取り通気をよくしておきます。
- 耳に異常を発見した場合には、早期に動物病院に相談することが大切です。

耳の病気に悩まされているイヌは実に多く、特に外耳炎は飼い主さんが気づいていないこともよくあります。たまには耳の中をのぞいて見てください。もし汚れていたり、異臭がすれば外耳炎の可能性ががあります。

外耳炎の治療は、耳の洗浄が効果的ですが、家庭で行う手当てや治療を受ける際はいくつかの注意点があります。

1 綿棒は耳の奥まで入れないこと

：綿棒を入れるのは外から見える範囲までとして、周囲の汚れを取る程度にします。中まで入れると、綿棒で外耳道を傷つけ、炎症を助長し、汚れを奥に押し込んでしまうことがあります。

2 洗浄液の使い方

：洗浄液を外耳道に流し込み、外耳道の軟骨を両側から挟むようにして、よくマッサージします。その際、クチュクチュと音がするようにマッサージします。もし耳の奥に汚れがあれば、マッサージすることによって上に浮上してきますので、ティッシュなどですくってください。

3 治療は中断しないこと

：外耳炎は短期間で治る病気ではなく、少なくとも1週間、通常は数ヶ月以上を要します。できる限り早期に症状をおさえ治癒させるためには、飼い主さんの愛情と根気が必要です。外耳炎は、油断して治療を怠ると、すぐ元の状態に戻ってしまいますので、根気よく治療を受け、途中でやめないことが大事です。

※耳炎を治療しないで放置しておくと、体のバランスがとれなくなったり、耳が聞こえなくなるという重大な障害を生じます。